なんたん

農業委員会だより

No.32

平成29年2月号

農業委員会のうごき…… 2・3
地域農業を支える…… 4
まちかど通信…… 5
特集…… 6・7
なんたんあっちこっち他…… 8

平成29年2月3日
胡麻保育所の豆まき会

発行　南丹市農業委員会　　編集　南丹市農業委員会広報委員会

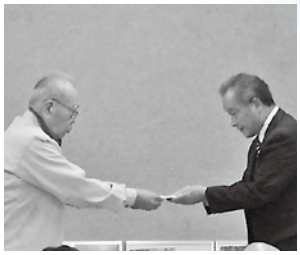
〒622-8651　京都府南丹市園部町小桜町47
■電話　0771-68-0067　■E-mail　co-nougyo@city.nantan.lg.jp
■FAX　0771-63-0654　■URL　http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/resource/nougyou.html

農業委員会のうごき

鳥取県にて 管外視察研修を実施（平成28年11月17～18日）

1日目

鳥取県三朝町（みささちょう）・竹田地域協議会の女性を中心とした「ざっこの会」の活動



▲見舞金を手渡す野中会長（左）

▲「ざっこの会」での研修

三朝町竹田地域では、「地域の総合力を高め、自立を促進する条例」に基づいて平成19年に竹田地域協議会を設立し、地域振興や産業振興などに取り組まれています。

「ざっこの会」は、産業振興に関わる女性メンバーの「井戸端会議」をきっかけに発足した会です。協議会が主催する清掃活動や町の行事など、メンバーが楽しく積極的に参加できる工夫をしながら協議会の行事に貢献されてきました。年に2回、50食限定の料理をふるまう「竹田御膳を楽しむ会」を行い、地元を超えて多くの方々に喜ばれているそうです。地域内の交流や地域外への「おもてなし」を実施されている姿に、女性のパワーと輝きを実感しました。

三朝町は、鳥取県中部地震で甚大な被害にあわれたとのことで、三朝町農業委員会に対し、南丹市農業委員会より見舞金をお渡ししました。

2日目

鳥取県日南町（にちなんちょう）・農事組合法人「エコファームHOSOYA（ほそや）」の活動

平成12年の鳥取県西部地震で、水路等が壊滅して水稲ができなくなったことから、農地を守る手段として水のいらないそばの栽培を始め、平成15年にそば生産組合を設立。その後、有力な担い手が他界したことをきっかけに個人で農地を守ることに限界を感じ、集落で農地を守っていこうと、そば生産組合も統合した集落営農組織を設立。平成24年には、農事組合法人へと移行されました。その際、農業機械の購入などでは、自分達の取り組みに合った国の補助事業を探し、活用することで事務手続きなど苦労を重ねながら体制整備をされたそうです。

今では、売れるお米作りを目指し、海藻有機肥料を使い農薬や化学肥料をできるだけ使わず育てた「海と天地のめぐみ米」は、鳥取県の特別栽培米に認定され、ネット販売など自力で販路を確保されています。また、水田オーナー制度も導入し、現在約7ヘクタールの農地で取り組まれています。水田オーナー制度の活用や、日南町産米のブランド化など、生産・販売への様々な工夫に熱意を強く感じました。

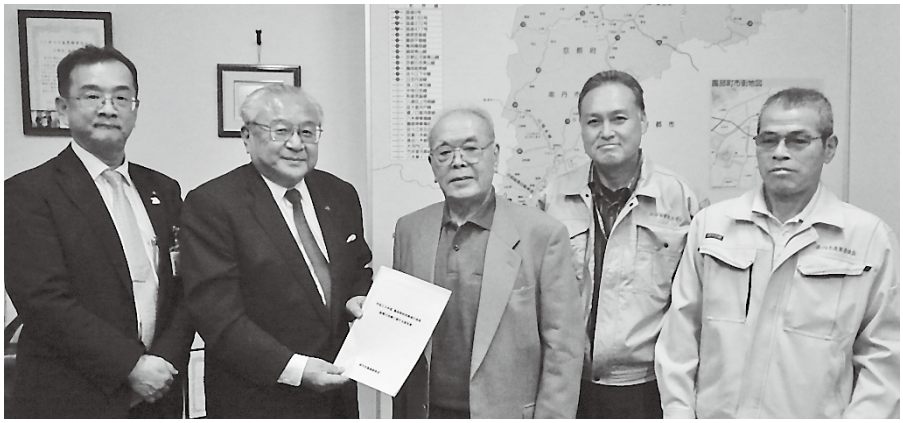
（取材：小林義雄 委員）

▲安心・安全にもこだわった日南町産米

▲農事組合法人「エコファームHOSOYA（ほそや）」での研修

「農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書」を市長へ提出

農業委員会法第38条第1項の規定により、施策の改善等について農政部会で審議を重ね、平成29年度施策に関する意見書を作成しました。11月21日、南丹市長に対して意見書を提出しました。（全文は、ホームページで公開しています。）



▲左から 農林商工部塩内部長、佐々木市長、野中会長、大沢職務代理、上田農政部会長

Ⅰ．安定した農業所得の確保に関わる施策について

(1) 米の直接支払交付金制度が平成29年産米で廃止されることから、国・府へ交付金制度の恒久化や増額を要望し、あわせて市独自施策の創設を望む。

(2) 南丹市ブランド産品の開発と、地元産食材を加工・販売する6次産業化について、市独自施策の実施を求める。移住・営農希望の方に対する定住促進施策の充実を望む。

(3) 様々な農産物や農産加工品を「ふるさと納税」記念品とし、積極的なPRを望む。

Ⅱ．人材育成について

(1) 担い手農業者に対し、施策に関する情報提供や研修会の充実を図ることを求む。

(2) 人材育成に関わるフォローアップ体制の確立を望む。

(3) 農業機械更新の購入補助を、国・府に要望し、同時に市独自施策として補助の実施を求む。

Ⅲ．耕作放棄地対策と野生鳥獣害対策について

(1) 「京都モデルファーム運動」等、耕作放棄地対策制度の周知や成功事例を紹介するとともに、高齢農家や小規模農家が意欲を持って農業を継続できる支援を求む。

(2) 有害鳥獣捕獲のため京都府・猟友会等と連携をさらに強化し、効果的な対策を望む。

(3) 捕獲・駆除した鳥獣の処理・加工施設について、中丹地域と同様に京都府が中心となって整備されるよう要望されたい。

「南丹ブロック農業委員・農地利用最適化推進委員研修会」を受講しました

11月24日、南丹市国際交流会館において、「南丹ブロック農業委員・農地利用最適化推進委員研修会」が開催されました。今回の研修会は、改正農業委員会法が平成28年4月1日に施行、新たに「農地利用最適化推進委員」の設置が義務付けられ、農地等の利用最適化を推進するための活動についてのものです。

最初に、京都府農業会議より現段階で新体制に移行した農業委員会の概要や、農地利用最適化推進委員の重点業務の説明がありました。その後、兵庫県南あわじ市農業委員会の講演や南丹市・亀岡市・京丹波町の農業委員からそれぞれ実践発表があり、今後のあり方について、学習する場となりました。

（取材：平野清久 委員）

▲発表する松本國夫委員

（注）改正農業委員会法に基づく本市農業委員会の移行は、次期（平成30年7月1日）からです。

地域農業を支える

あの人この団体！

地域農業の発展を目指し、力強く活動されている団体や個人の農業者をシリーズで紹介します。

上胡麻（かみごま）地域協議会

（南丹市日吉町上胡麻）

太平洋と日本海側に分かれる分水嶺の郷、約42町歩の水田とおよそ130世帯300人（農家65世帯）が住む小さな農村集落。昔から春と秋の彼岸日には「道つくり」、春先には「水路掃除」と、集落の道路や水路の掃除など一斉作業が習慣として行われていました。

やがて高齢化と少子化が進み、農業離れが進むなか、一斉作業にも力が入らなくなってきました。それまで取り組んできた「中山間地域等直接支払制度」の補助事業も、全体の取り組みではなく、バラバラの取り組みになってしまっていました。

そんな中、新たな補助事業が知らされました。「農地・水・環境保全向上対策」です。将来の農業に不安を感じていた数人が声を上げました。

▲「道つくり」に取り組むメンバー

「このまま何もせずにいたら、村が消える…」と危機感を持っていた人々です。皆で考えようと発奮。全員の協議の末、地域で取り組む事に決議されました。平成19年の事です。

まず組織の核になる事務局を立ち上げ、取り組みの案作りを行いました。その案をたたく実行委員会を組織・開催しました。農道補修工事や水路の改修、ため池の法面の草刈り、農地の保全管理、獣害防止の金網フェンスの補修と、ひとつずつ取り組んでいきました。

平成24年度に「農地・水・環境保全向上対策」から新たな「多面的機能支払交付金事業」にかわりました。地権者の厚い理解のもと、農道拡幅工事に取り組み、業者の請け負い事業で見違える程の基幹農道として誕生しました。これにより、大型農機や運搬自動車も楽に通行できるようになり、耕作者に笑顔が戻りました。

また、他地域を見学し、「売れる米づくり」「特徴ある米づくり」について考える研修会を実施しました。

隔年で開催する消費者と生産者の交流会としての「秋祭り」に「恋活」を同日にあわせて実施し、おおいに盛り上がりました。

「高齢化・機械化が進む中、安全作業で、少しでもやりがいのある農業、流した汗が笑顔になる農業、皆で知恵を出し次世代につなげる取り組みを進めて行きたいと願っている」と、理事の一人は熱く語ってくれました。

（取材：谷口定己 委員）

▲野菜づくりの講習会での集合写真

【おわびと訂正】前号（No. 31）4ページ「地域農業を支える」にて、団体名の記載誤りがございました。お詫びして、訂正いたします。

（誤）アール萱野⇒（正）パル萱野

まちかど通信

Café Le Jardin Pop（カフェ ル ジャルダン ポップ）

場 所：南丹市園部町埴生小山54
電 話：0771-65-0489
定休日：月～水曜日（祝日は営業）
開店時間：9:30-17:00

玉置浩子さん（右）
息子さんの卓磨さん（左）▶

オーナーは玉置浩子（たまきひろこ）さん。大阪在住だった5年前、亀岡の貸し農園で2年ほど野菜作りの指導を受けられました。だんだんと田舎に魅了され決心。3年前に園部町埴生の古民家と畑を購入され、カフェをオープンされました。無農薬有機栽培で野菜を育て、採れたて野菜を食べていただきたいと、ランチには新鮮な野菜を使っておられます。国産の小麦粉を使用した自家製パンといっしょにいただけます。

店名はフランス語で「にぎやかな庭でカフェ」という意味だそうです。休みの日は庭の手入れに余念がないとのこと。また店内のテーブルや壁も手作り。1年以上かけて完成させた空間は、落ち着き感満載です。店内には薪ストーブがあり、寒い冬でも暖かく過ごせます。

（取材：関　隆宏 委員）

▲薪ストーブのある店内でほっこり。

環境・歴史・文化・健康の庄（むら）

吉富ノ庄（よしとみのしょう）

場所：南丹市八木町鳥羽鳥栄本11（旧吉富小学校）

第1回吉富ノ庄まつり実行委員会（会長　廣瀬稔（ひろせみのる）さん・委員25名）が中心となって準備に取り組まれ、10月30日、南丹市八木町の吉富ノ庄（旧吉富小学校）にて、「第1回吉富ノ庄まつり」が開催されました。地域の姿をテーマにした短編映画を上映する映画祭をはじめ、まつりを盛り上げようと様々なグループが曲を披露した音楽祭、文化展の出展、青空市、飲食ブースがあり、地元企業3社の協賛も得て、多くの方が参加し楽しまれました。

平成27年のオープニングイベントより1年。「吉富から絆の輪（和）を広げ続けよう」という「京都・丹波　吉富ノ庄憲章」のとおり、多くの人々の出会いとふれあいによって、絆の輪がさらに広がっていました。

小学校廃校後、初めての大きなイベントで、関わった団体、個人の協力者100名を超えた第1回のまつりでした。

（取材：廣瀬　但 委員）

▲富本クラブヒップホップダンスサークルによるダンス

▲青空市で買い物を楽しむ人々

特集

里の文化と暮らし

ブルーベリーなどのハウス栽培・加工販売

日吉町田原（たわら）　西田貴彦（たかひこ）さん（右）
芳恵（よしえ）さん（左）

西田さん夫婦は、石川県金沢市から日吉町田原に平成16年に移住され、同町四ツ谷で「食彩（しょくさい）あん」を創設されました。現在は、夫婦と娘さんと3人で暮らしておられます。

貴彦さんは、以前、製薬会社に勤められ、多用される薬に疑問を持っておられました。そこで健康のために食品の安心安全なものづくりに興味がわき、「素材に一から関わることで、自分の納得いくものを作りたい」との思いから新規就農し、農産加工の道を歩まれました。「食彩あん」の「あん」は食品の安心安全なものづくりを誓って、その「安」を取って名付けたそうです。

自家製ブルーベリーなどのベリー類をはじめ、生産者の視点から、安心安全な地元素材の丹波栗や黒豆などを直接他の生産者から仕入れ、めずらしいジャムに加工しておられます。南丹市内外の「道の駅」や通販等で販売し、リピーター率が高く好評だそうです。

「地域は人々のつながりと助け合いで成り立っていますが、高齢化で徐々に力が弱まっています。私は、地域の一員として自覚を持って、微力ながら支えていきたいです」と力強く語っていただきました。

（取材：梅津義明 委員）

ご自身や愛する家族のため
国民年金＋農業者年金で将来に備えましょう！

★農業者年金は、国民年金（基礎年金）に上乗せした任意加入の公的年金制度

❶積立方式（確定拠出型）で少子高齢化時代に強い年金です！
❷生活設計や経営状況に合わせて（２万円から６万７千円まで千円単位）保険料設定可。
❸収入が多いとき、保険料（社会保険料控除）を増やせば節税できます。

★加入資格…国民年金の第１号被保険者（※保険料の免除者は除く）・年間 60 日以上の農業従事者・60 歳未満の方

◆ 詳しい内容などお問い合わせは南丹市農業委員会事務局（0771-68-0067）まで ◆

農業委員活動を紹介します

美山町宮島地区においてサツマイモなどの栽培を行いました。耕作されず繁茂した雑草を刈取り、耕うん、畝立の後、450 本の苗を植え付けました。

10 月 18 日、美山小学校1年生 17 名とのイモほりを実施。子どもたちは、満面の笑みで歓声を上げながら楽しみ、子どもも委員も充実した収穫日でした。学校給食、美山ふるさと祭りの食材としても使っていただきました。今後も、農業委員一丸となって貴重な農地を有効活用し、食と自然を守って行きたいと思いました。（取材：中野貞一 委員）

10 月 25 日、園部第二小学校の1年生 40 名が、サツマイモの収穫を行いました。サツマイモを傷つけないように少しずつスコップで掘っていくと、大きなイモがいくつも出てきます。子どもたちは大きな歓声をあげ、イモ堀りを楽しみました。収穫後は、あたたかいふかしイモとイモご飯を食べました。ほくほくとした甘みのあるサツマイモのおいしさと素朴な味のイモごはんに、子どもたちは満足した様子でした。（取材：平野清久 委員）

南丹市の農作物あるある！

南丹市で作られている農作物に関する情報を紹介します。
「野菜」「果実」「花」など様々な農作物の紹介や、育て方のいろは、それらを使った加工食品や、調理法などを紹介します。

京都大納言小豆

大粒で色つやがよく独特の風味があり、市内では古くから作られています。主に京都の高級和菓子に用いられ、他府県産に比べ高値で取引されます。

以前は、播種作業から収穫・選別作業のほとんどを手作業で行っており、生産の拡大が難しい品目でした。近年では集落営農などによる機械化が進み技術も確立してきています。大きな需要に、生産量が追い付いていない状況です。（取材：廣瀬　但 委員）

サトイモ

正月用の煮物やお弁当の一品として、欠かせない食材です。茎の根元部分で育つ親イモは「頭イモ」と呼ばれ、縁起物として雑煮などに使われます。また周囲の子イモは「子宝に恵まれるように」と食され、単なる野菜ではなく、和の文化を感じます。包丁で皮をむくと粘り気で滑りやすく、スーパーなどでは機械むきしたものも販売されています。カツオだしの薄味でユズの香りを添えて。（取材：梅津義明 委員）

なんたん あっちこっち

とにかく広い南丹市。
南丹市のあちらこちらでは、その地域ならではの面白く、楽しい、また興味深い取り組みがされています。
そんな南丹市の、**あっちこっち**のできごとを紹介します。

西田ふるさと保全会 コスモス祭り（八木町）

昨年秋、八木町西田の農地約15アールでコスモス祭りが行われました。多面的機能支払交付金による地域活動の計画によって、休耕農地を活用し、環境保全への意識を高めてもらうための活動です。10月30日には八木中央幼児学園約180人の園児たちが、背丈ほどのコスモスを楽しみました。

▲太鼓・尺八の演奏を楽しむ園児たち

保全会の入江功（いりえいさお）会長、委員や地区の方々で農地・用水路などの整備を行い、これからも環境保全活動に取り組んでいかれます。

（取材：廣瀬　但　委員）

錦秋の山里でスタンプラリーを開催（美山町）

11月13日、南丹市美山町で錦に染まる山並みや秋の味覚を楽しむ「森の京都DAY・国定公園美山スタンプラリー」が開催されました。

美山町の西の玄関口である大野ダム公園では、「第28回大野ダムもみじ祭り」。中心部の宮島地域では、美山エビスウッズガーデンで「美山ウッドエンジニアストーブ祭」として、薪割体験や薪ストーブでのパン焼きなどが行われました。美山町の北、鶴ケ岡地域では、旧鶴ヶ岡小学校で西の鯖（さば）街道として「京都美山さば寿司さみっとin鶴ヶ岡」が開催され、シンポジウムやさば寿司の販売、そば打ちなどが行われました。

3会場でスタンプを集めると、記念品の新米がもらえました。どの会場もたくさんの参加者でにぎわい、中でも、もみじ祭りの会場では、美山の旬がいっぱい詰まった名物「ふるさと鍋」が振る舞われ、行列ができていました。

（取材：梅津義明　委員）

▲大野ダムの紅葉

委員ぶらり旅

旅人：谷口定己 委員

京都　伏見港

師走の祝日。小雨が降る中、ぶらりと一人、酒蔵の街「伏見港」へ。京都駅から近鉄電車「桃山御陵前（ももやまごりょうまえ）」駅で下車。師走の買い物客が賑わう大手筋通、アーケードを抜けると、軒先に掛かった杉玉が迎えてくれました。昔の日本酒は、杉の木の桶で仕込んでいたことにより、杉の葉を使って作った杉玉を軒先につるし、新酒の完成を知らせたといいます。酒造会社の工夫を凝らした資料館や記念館を見学。新酒の試飲、黒板塀と白壁土蔵の美しさ、旅情緒気分を存分に味わえました。

最後に立ち寄ったのが、伏見港・京橋のすぐ近くに建つ「寺田屋」。明治維新の立役者、坂本龍馬が身を寄せた船宿。刺客に襲われた際の刀傷や、当時の写真展示など、維新の息吹を今に伝えていました。三十石舟に乗る予定でしたが、冬の間は休止とのこと。残念な思いをしながらも夕陽が迫る中、伏見港を後にしました。

編集後記

胡麻保育所で豆まきがあると聞き、訪問しました。遊戯室には約60名の園児が保育士さんのお話を聞き入っていました。赤鬼や青鬼が現れると、歓声とともに豆まきが始まりました。喜び顔、びっくり顔、泣き顔、子どもたちのいろいろな顔がありました。（谷口定己 委員）

訃　報

平成29年1月10日、南丹市農業委員 小林（こばやし） 利治（としはる） 氏（享年81歳）が逝去されました。平成18年7月から農業委員として地域農業の発展にご尽力いただきました。生前のご功績をしのび、心からご冥福をお祈り申し上げます。
※日吉町四ツ谷・佐々江は、大沢泰一委員の担当地区となります。

VEGETABLE OIL INK
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C003362